

# 教育相談課だより

## 思春期の 理解と 対応

青森県で、中学生によるショッキングな事件が起きました。今後、背景に何があったかは解明されていくと思われませんが、実は過去にも同様の事件は何度も起きています。その度に教育関係者がその対応を見直し、提言が出されてきていますが、残念ながら繰り返し起こっているのが現状です。教育に携わる者として、こうした事件を起こさないために、身に付けなければならない知識やスキルがあるように感じます。

茨城県教育研修センターでは、こうした様々な問題の未然防止をねらいに、「思春期の子どもと保護者に寄り添う教師のためのソーシャルスキル研修講座」を実施しました。思春期の複雑な子どもの心理を理解し、その保護者も含めて、どうサポートしたらよいかを学ぶ講座です。この講座では、国立大学法人茨城大学大学院教授の三輪 壽二先生からご講義をいただきました。大変学びの多い講義でしたが、下記の2点を紹介いたします。



### ①保護者としての対応

思春期は、依存的な行動と自立的な行動の両方が現れる。それまでは親の作ったルールの中で行動していたが（親に依存）、自分でルールを作るようになる。（親からの離脱＝自立）ここに親子間の葛藤が生じる。大切なことは落としどころを見つけるための話し合いである。

### ②教員としての対応

自己形成の途中なので、本人の意志を尊重する。ただし、大人として言うべきことは言い、妥協を図る話し合いが必要である。

要するに、大人の価値観を押しつけるのではなく、よく話し合うことが必要だということです。しかし、教員は子どもや保護者と話し合う時間が十分に取れない現状もあります。そこで必要となるのが、子どもや保護者と関わり合うスキルです。午後は、ここに焦点を当て、「解決志向アプローチ」の考え方を生かした子どもや保護者への向き合い方を、講義・演習を通して身に付けました。具体的には、「リソース探し」、「例外探し」、「コンプリメント」等です。

「解決志向アプローチ」の考え方は、元はブリーフセラピーというカウンセリングの理論ですが、カウンセリングにとどまらず、普段の学級経営や保護者対応にも生かされる考え方です。この考え方を活用することで、これまでの教育活動の効果が高まることが注目されています。

教育相談課では、この「解決志向アプローチ」の考え方を生かした研究に取り組んできました。12月26日に、その研究成果の発表を予定しており、小・中・高の各協力校の実践発表の他、「解決志向アプローチ」の第一人者、目白大学大学院教授 黒沢 幸子 先生から、詳しいご講義をいただくことになっています。すべての子どもたちと教員が、楽しく学校生活を送れるよう、ぜひ研究発表会に参加いただきますよう、ご案内致します。

### 【茨城県教育研修センター研究発表会】

日 時  
会 場  
研究主題

令和元年12月26日（木） 9時00分受付

茨城県教育研修センター大研修室

「児童生徒の自己指導能力を育む生徒指導」

ー解決志向アプローチの考え方を生かした

ガイダンスとカウンセリングの機能の充実を通してー